

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	せいかだい保育所	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会		

平成 28 年 3 月 2 日

総 評	<p>せいかだい保育所は、平成 17 年 4 月に公設民営保育所として、関西文化学術研究都市の中心に開設され、周辺は閑静な住宅や公園に囲まれています。運営母体である社会福祉法人京都長尾会は、京都府下で人口増加地域にある周辺の福祉ニーズに応えるため、小規模保育事業や放課後児童クラブを開設するなど、地域に根差した子育て支援施設としての役割を担えるよう取り組んでいます。</p> <p>保育理念の「一人ひとりの自立支援」「一人ひとりの自律支援」「共育ち支援」を特に大切に日々の保育を実践しています。職員は、子ども同士の異年齢でのかかわり合い、シニアボランティアなどの地域の方々との触れ合い、そして保護者との連携協力を含め、相互に支援し合う環境提供に努め、「共育ち支援」の理念を実践しています。</p> <p>所長を中心に、副所長、主任、副主任らの管理者は保育の現場に入り、日々の保育が方針に沿って行われるよう取り組んでいます。子どもたちがさまざまな体験を通して、自ら考え主体的に判断して行動できるよう、どのような保育環境を提供すればよいか、保育の質の向上に努めています。</p> <p>施設設備の衛生・安全面への対応も充実しており、管理者は子どもたちの過ごす環境に対して配慮し、管理者と職員のコミュニケーションの充実と共に、保育の場が安心な環境となるよう努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育課程や月間指導計画のねらいなどを保護者の方にも理解してもらえるよう保育内容を写真と文章で 2 週間ごとに掲示しています。月間指導計画の評価・反省を毎月実施しており、翌月の指導計画にその内容を反映させています。 ・ 所長、副所長、主任、副主任らの管理者は、毎日の 16 時 45 分からの会議、月 1 回の全体職員会議、適宜実施する各部署会議等に出席し、方針に沿った保育が実践されるよう取り組んでいます。毎日の会議内容は運営システムの業務日誌に入力され、全職員が翌日朝までに閲覧確認出来るようにしています。 ・ ボランティア活動は、月 1 回のシニアボランティアや高校生の体験学習や中学職業体験受け入を行っています。シニアボランティアは登録制で、縫い物や味噌作りから縄作り、絵本の読み聞かせ、コマ回しなどの伝承遊びまで色々な事を教えていただく機会を設け、「共育ち支援」として、子どもたちとのふれあいを大事にしています。 ・ 幼児では異年齢で過ごす日と年齢で過ごす日を設けたり、ニコニコタイムと称して、保育室ごとに違う遊びを展開し、自分の好きな遊びを自由に選んで回れる日を作るなど、子どもたち同士で成長し刺激しあえるよう促しています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、行事を中心に行っている楽器演奏を自由に楽しめるよう計画されており、さまざまな楽器に触れられよう取り組まれるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を 3 点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	せいかだい保育所
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	2016年3月2日（水）

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
		I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A
	② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。		B	A
	③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。		A	A
	④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。		A	A
	⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A	
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A

[自由記述欄]

・保育の理念・基本方針・保育目標が明文化され、保護者には入所時に「入園のしおり」に基づいて説明し、職員には職員会議や所内研修で周知しています。また、ホームページに記載されており、保護者や地域の方への周知にも努めています。

・保育理念に沿った保育課程が編成され、保護者への配布と共に各保育室に掲示しています。その保育課程に基づいて指導計画を作成しています。保育課程や年間指導計画のねらいなどを保護者の方にも理解してもらえるよう保育内容を写真と文章で2週間ごとに掲示しています。年間指導計画は評価・反省が翌月の指導計画に反映される様式を用い、その内容を反映させています。

・所長、副所長、主任、副主任らの管理者は、毎日の16時45分からの会議、月1回の全体職員会議、適宜実施する各部署会議等に出席し、方針に沿った保育が実践されるよう取り組んでいます。毎日の会議内容は運営システムの業務日誌に入力され、全職員が翌日朝までに閲覧確認出来るようにしています。全体職員会議の内容も、写真入りの議事録を作成し、欠席職員にも会議内容や雰囲気は伝わるよう配慮しています。また、職員による管理者評価アンケートも無記名で行っています。

・ワークシェアリングとして、パートタイム職員の配置を効率的に考え、職員間の協力体制がスムーズに行えるよう配慮し、書類作成等の業務が行える時間確保に努めています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A	
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A	
		② 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A	
		③ 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A	
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A	
② 定期的な個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。		A	A		
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
	II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
			② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。			A	A	
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A	

[自由記述欄]

・職員の有給休暇消化状況を確認し、取得を促しています。心理カウンセラーや弁護士と提携し、職員の悩みや就業状況などの意向を把握し改善する仕組みを整備しています。また、職員向けのシェアハウスがあり、家賃の補助を行うなど、職員の福利厚生面の充実に努めています。

・職員の教育・研修に関する理念・方針が明文化されています。個別の研修計画を作成し、各職員の担当や目標に応じた研修に参加出来るよう取り組んでいます。その内容は、年度途中で見直す機会を設け、実態に沿ったものとなるようにしています。

・実習生受け入れマニュアルやボランティア受け入れマニュアルがあります。実習生受け入れ事業計画を作り、一日の流れや実習期間のスケジュールを整備し、実習生や担当職員が内容を理解して取り組めるようにしています。ボランティア活動は、月1回のシニアボランティアや高校生の体験学習や中学職業体験受け入れを行っています。シニアボランティアは登録制で、縫い物や味噌作りから縄作り、絵本の読み聞かせ、コマ回しなどの伝承遊びまで色々な事を教えていただく機会を設け、「共育支援」として、子どもたちとのふれあいを大事にしています。

・子育て支援事業として、地域の方によるクッキング教室や、未就園児の親子を対象にした「赤ちゃんサロン」、園庭開放、「チャイルド広場」として行事への参加など、地域の子育て家庭や在所児の親子に対しての様々な支援活動を行っています。また、所長は精華町の子育て会議に出席し地域の子育て家庭のニーズ把握に努めると共に、かしのき放課後児童クラブや小規模保育事業を実施し、そのニーズに応えるよう努めています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	B	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A
[自由記述欄]				
<p>・個人情報保護に関する規程や、苦情解決の仕組みが整備されており、「入園のしおり」を所内に掲示しています。また、苦情要望等の受け入れボックスを設置しています。それらの内容や改善内容は掲示等で公表し、保護者へのフィードバックを行っています。</p> <p>・3年に1度、定期的に第三者評価を受診しています。自己評価チェックリストを全職員に配布し、毎年自らの保育を職員全員で振り返り、保育の質向上に努めています。</p> <p>・子どもの身体状況や、生活状況等を定められた書式により、記録・管理しています。</p> <p>・毎日の会議や、適宜開催の各部署会議、毎月開催する全体職員会議などでケース会議を実施し、必要な情報が職員間で共有されるよう努めています。運営システムにより職員間で情報が共有出来るよう努めています。また、伝達ノートに日々の伝達事項を記録し、延長保育担当の職員にも引き継がれるよう配慮しています。</p>				

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	B	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	B	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	B
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	B
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

【自由記述欄】

・登所時や保育中の健康管理マニュアルがあり、これに基づいて日々の健康管理を行っています。年2回の内科健診、歯科健診を実施しています。その内容は、保護者に伝えると共に職員間でも情報を共有しています。感染症発生時対応マニュアルがあり、発生状況や人数などを所内に掲示し、保護者への注意喚起を促しています。

・3～5歳児は、ランチルームで給食を食べています。調理職員も子どもたちと一緒に給食を食べ、喫食状況などを把握するようにし、月1回の給食会議でそれらの内容を給食に反映出来るよう努めています。また、試食会の開催や食文化についての展示、お勧めレシピの紹介や、食事に関するアンケートの実施、保護者の参加する食育のつどいを年4回開催するなど、食育について保護者と共通理解が持てるよう取り組んでいます。

・保育室安全チェック表やトイレ水回りの衛生管理チェックマニュアルがあり、毎日点検を行っています。各保育室にはコーナー保育のスペースがあり、絵本やブロック、コマ回しなどがあります。幼児では異年齢で過ごす日と年齢で過ごす日を設けたり、ニコニコタイムと称して、保育室ごとに違う遊びを展開し、自分の好きな遊びを自由に選んで回れる日を作るなど、子どもたち同士で成長し刺激しあえるよう促しています。今後は、行事を中心に行っている楽器演奏を自由に楽しめるよう計画されており、さまざまな楽器に触れられよう取り組まれるとより良いでしょう。

・幼児の保育活動の中に科学する心を育むための取り組みを行っています。焼き芋作りでは、子どもたち自身が焼き方を考え、どうしたらよく焼けるのかを役割分担を含め一緒に考え取り組んでいます。影絵あそびでは、光と影の関係を子どもたち自身が楽しみ発見できるよう促しています。乳児は少人数のグループをつくり、特定の保育士との丁寧なかかわりを大事にし、子どもが安心して過ごせるよう配慮しています。

・保育所は周辺を閑静な住宅街や、公園に囲まれおり、園外保育計画書を作成し身近な自然や社会とかかわれる機会を設けています。

・近隣の保育園・幼稚園・小学校・中学校合同で定期的な人権研修があり、その内容を会議で職員に周知しています。

・障害児については、専門機関と連携を図り、子どもの特性に応じた個別支援計画やケア記録を作成しています。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

・年に3回以上、個別懇談を実施しています。個別懇談の内容は記録され、職員間で情報を共有しています。個別懇談以外にもクラス懇談会や参加型の保育参観日設けるなど、園の保育内容について保護者と共通理解が得られる機会を設けています。また、親と子の育児記録「すくすくシート」を保育者と共に作成しています。0・1歳児は1ヶ月ごと、2歳児は2ヶ月ごとに作成しています。

・子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容に活かされています。5歳児は地域の小学校に訪問する機会を年3～4回設けるなど、小学校との連携を図っています。

・一時預かり保育は、保育の内容に応じて在園児との交流を実施したり、保護者からの相談受け入れも行っています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]

・衛生管理マニュアル、食中毒予防マニュアル、事故防止のための安全チェックリストなどの対応マニュアルを整備し、毎日施設・設備の点検確認を行っています。

・危険レポートとしてヒヤリハットを作成し、園内の危険箇所や危ない事例を記録し、事故防止に努めています。IDカードを保護者に配布し、登降園時には提示を求め、防犯対策に努めています。